



アートウィーク東京で SANAA 妹島和世監修の建築ツアーを開催。 ベルリン市と提携でシャトルバスもエキシビションの舞台に

一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォームが主催する「アートウィーク東京(略称:AWT)」は、2024年11月7日(木)～11月10日(日)の会期中に開催するプログラムを追加発表しました。SANAA 妹島和世監修の建築ツアーや無料のシャトルバスを会場とするベルリン市とのコラボレーション企画など、都内を移動しながらカルチャーに触れられるプログラムを提供します。



「塔の家」設計：東孝光 © Nacása & Partners



「花小金井の家」設計：伊東豊雄 © Ohashi Tomio

SANAA 妹島和世監修による建築ツアー

「TOKYO HOUSE TOUR」は、東京の街に佇む名建築を巡る建築ツアー。コースの監修を務めるのは2004年ヴェネチアビエンナーレ国際建築展 金獅子賞、2010年プリツカー賞などの受賞歴をもつ建築ユニット「SANAA」の共同設立者であり、2022年からは東京都庭園美術館館長を務める建築家・妹島和世です。

1回目のテストケースとして実施される今回は、建築家・東孝光が1966年に設計した東京都心の住宅「塔の家」と、建築家・伊東豊雄が1983年に設計した東京郊外の住宅「花小金井の家」を訪ねます。

妹島和世 コメント

現在の東京には素晴らしい小住宅が多く存在しています。それらは戦後、個人事業として設計を営む建築家の設計によって建てられた庶民の家です。そうした小住宅群は、戦後の東京の暮らしをいまに伝え

る貴重な財産でありながら、同時に日本近代建築史の中で公共建築とともに存在感を示し、日本の近代建築を象徴する存在として世界で高く評価されてきました。住宅建築がこれほど多く集まる街は、世界的に見ても東京以外にありません。

しかし現在、高齢化をはじめとする様々な理由により、そうした建築物の維持が難しくなっています。例えば、ヨーロッパでは戦後に建てられた住宅建築の多くは集合住宅であり、それらは地方自治体によって保存されながら現在も大切に使われていますが、日本の小住宅群はすべて民間で作られたものであるために、その保存と継承の困難さが現実的に大きな問題になっているのです。そこで、そうした小住宅に新たな使い方を与え、それらを東京の、そして日本の財産として継承し、みんなで守っていったら良いのではないかと考え、このプログラムを企画するに至りました。

今回のツアーはその1回目のテストケースとして、建築とその保存継承、そして東京の暮らし全般に関心のある方たちを対象に、東京都心に建つ住宅と、まだ自然が残る郊外に建つ住宅のふたつを取り上げます。



©SANAA

妹島和世 (せじま かずよ)

建築家。1956年茨城県生まれ。1981年日本女子大学大学院家政学研究科を修了。1987年妹島和世建築設計事務所設立。1995年西沢立衛とともにSANAAを設立。2010年第12回ベネチアビエンナーレ国際建築展の総合ディレクターを務める。日本建築学会賞*、ベネチアビエンナーレ国際建築展金獅子賞*、プリツカー賞*、芸術文化勲章オフィシエ、紫綬褒章などを受賞。現在、ミラノ工科大学教授、横浜国立大学大学院Y-GSA名誉教授、日本女子大学客員教授、大阪芸術大学客員教授。主な建築作品として、金沢21世紀美術館*（金沢市）、Rolexラーニングセンター*（ローザンヌ・スイス）、ルーヴル＝ランス*（ランス・フランス）などがある。（*はSANAAとして）

「TOKYO HOUSE TOUR」参加概要

開催日時：11月8日（金）

塔の家 ① 9:00-10:00 ② 10:00-11:00 ③ 11:00-12:00

花小金井の家 ④ 12:00-12:45 ⑤ 13:00-13:45 ⑥ 14:00-14:45

11月9日（土）

塔の家 ① 9:00-10:00 ② 10:00-11:00 ③ 11:00-12:00

花小金井の家 ④ 12:00-12:45 ⑤ 13:00-13:45 ⑥ 14:00-14:45

定員：各回10名

参加費：5,500円／軒（税込）

申し込み：<https://www.artweektokyo.com/program/tokyo-house-tour/>

申込締切：11月5日（火）

主催：アートウィーク東京

協力：妹島和世、東利恵

※ご希望の時間帯のPeatix チケットをお申し込みください。

※申込受付は先着順とし、定員になり次第、締め切ります。

無料のシャトルバスがエキシビションの舞台に



「AWT BUS」（麻布台ヒルズ）

53のアートスペースとアートウィーク東京（AWT）の独自プログラムをつなぐ、無料のシャトルバス「AWT BUS」。今年のシャトルバスは複数のルートを10時から18時まで約15分おきに巡回。どの停留所からでも乗り降り自由です。バス乗車時に配布されるAWT参加証を提示すると、参加美術館で開催される展覧会の一部で割引が適用されます。

さらに今年は東京都とベルリン市の友好都市提携30周年を祝して、「Berlin-Tokyo Express」と題し、同市とのコラボレーションのもと、両都市を拠点とする多彩なアーティストの作品がAWT BUSに展示されます。

歴史を題材とした写真作品で知られるアンドレアス・ミュエによる初の彫刻作品《Bunker – Real Historical Space》から、マルテ・バーチュのインタラクティブな《Time Machine》、ルチア・ケンプケスがストーンペーパーで生み出すレリーフなど、両都市の文化や創造性が交差する作品の数々をバスで移動しながらお楽しみください。また南青山のAWT BARでは「Berlin-Tokyo Express」の一環として、アーティストの上田舞が茶会のパフォーマンスを複数回にわたって実施予定ですので、こちらもお見逃しなく。キュレーターは、ベルリン観光局（visitBerlin）のアート&カルチャー担当ディレクターであるルッツ・ハンケが務めます。

「Berlin-Tokyo Express」開催概要

会場：AWT BUS 車内（41 台、全てのシャトルバスに展示されます）

会期：11 月 7 日（木）～11 月 10 日（日）

時間：10:00～18:00（AWT BUS の運行時間に準ずる）

料金：無料

<https://www.artweektokyo.com/bus/>

展示作家および作品：

A ルート

マルテ・バーチュ 《Time Machine》

B ルート

サンティアゴ・シエラ 《BERLIN RECORDED THROUGH SILOS 9 AND 16》 《85 TEETH OF WAR REFUGEES FROM YEMEN AND SYRIA》 44

C ルート

ルチア・ケンプケス 《A Stream of Thoughts to Detach Us from the Current》

D ルート

アユミ・パウル 《息の姿》

E ルート

ヤン・ヴォー 《無題》

F ルート

アンドレアス・ミュエ 《Bunker – Real Historical Space》

AWT BAR

上田舞 《TO SEE THE WIND》

開催日時：11 月 8 日（金）①12:00-13:00 ② 13:00-14:00

11 月 9 日（土）③11:00-12:00 ④ 12:00-13:00

定員：各回 6 名

参加費：無料

申し込み：<https://awt2024toseethewind.peatix.com/>

申込締切：11 月 5 日（火）

※ご希望の時間帯の Peatix チケットをお申し込みください。

※申込受付は先着順とし、定員になり次第、締め切ります

アートウィーク東京について

アートウィーク東京は、東京における現代アートの創造性と多様性を国内外に発信する年に一度のイベントです。今年は東京を代表する 53 の美術館・ギャラリーがそれぞれ多様な展覧会と共に参加者を迎え、各施設を無料のシャトルバス「AWT BUS」がつなぎます。

また会期中は「買える展覧会」である「AWT FOCUS」や映像作品プログラム「AWT VIDEO」、建築 × 食 × アートのコラボレーションを感じられる特設の「AWT BAR」など、AWT 独自の企画も開催。様々な体験を通じて東京のアートの「いま」を感じられる 4日間です。

※バスルートや参加施設の詳細は AWT 公式サイトにてご確認ください。

<https://www.artweektokyo.com/bus/>

開催概要

アートウィーク東京

名称：アートウィーク東京（欧文：Art Week Tokyo、略称：AWT）
会期：2024 年 11月7日（木）～10日（日）（4日間） 10:00～18:00
会場：都内 53 の美術館／インスティテューション／ギャラリー
AWT FOCUS、AWT BAR ほか各プログラム会場
主催：一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム
提携：アートバーゼル（Art Basel）
特別協力：文化庁

アートウィーク東京モビールプロジェクト

名称：アートウィーク東京モビールプロジェクト
会期：2024 年 11月7日（木）～10日（日）（4日間） 10:00～18:00
主催：東京都／アートウィーク東京モビールプロジェクト実行委員会

料金

AWT BUS の乗車無料。

参加ギャラリーの入場無料。参加美術館では AWT 会期中に限り所定の展覧会にて AWT 特別割引適用。
AWT FOCUS の入場一般 1,800 円（前売 1,500 円）、学生・子供無料。

公式サイト <https://www.artweektokyo.com/>

Instagram [@artweektokyo](https://www.instagram.com/artweektokyo)
Facebook [@artweektokyo](https://www.facebook.com/artweektokyo)
X [@ArtWeekTokyo](https://twitter.com/ArtWeekTokyo)
YouTube [@artweektokyo6594](https://www.youtube.com/channel/UCartweektokyo6594)

コーポレートパートナー

オフィシャルパートナー：SMBC グループ
ホテルパートナー：オークラ東京
ビバレッジパートナー：ルイナール
サポーティングパートナー：公益財団法人 大倉文化財団 大倉集古館
サポーティングパートナー：クインテセンシャリー・ジャパン

メディアパートナー

リードメディアパートナー：フィナンシャル・タイムズ
The Art Newspaper
日本経済新聞社
Artsy
Arts of the Working Class
ArtReview

「アートウィーク東京」運営体制概要

アートウィーク東京は、アートバーゼルとの提携および文化庁の協力を受け、一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォームが主催します。また、都内のアートアクティビティーの体験を創出する「アートウィーク東京モバイルプロジェクト」を、東京都とアートウィーク東京モバイルプロジェクト実行委員会の主催により実施します。

「アートウィーク東京モバイルプロジェクト」概要

東京都とアートウィーク東京モバイルプロジェクト実行委員会が主催。アートウィーク東京の会期中に都内各地に広がる主要なアートスペースをつなぐ「AWT BUS」を運行するほか、会期前から会期中にかけて子どもや若者、アートコレクターを目指す方などを対象とするプログラムの展開や、国内外のキュレーターを招聘したシンポジウムなどを通じて、幅広い鑑賞者層に対してアートアクティビティーの体験機会を創出。国内のアートに対する関心の裾野拡大を目指します。実行委員は、小川秀司（東京都現代美術館副館長）、片岡真実（森美術館館長）、小松弥生（東京国立近代美術館館長）、塩見有子（NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT] 理事長、蜷川敦子（アートウィーク東京ディレクター／一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム代表理事）。

「アートバーゼル」概要

世界最高の規模と質を誇る近現代美術のアートフェア「アートバーゼル」。毎年、拠点となるスイスのバーゼルをはじめ、香港、マイアミビーチ（アメリカ）、パリで開かれるアートフェアには、世界各地

から大勢のアートファンや専門家が集まる。（公式サイト：<https://www.artbasel.com/>）

<報道関係のお問い合わせ>

アートウィーク東京 PR 事務局（WAG, Inc）

担当：会津・芳賀・林

TEL：03-5791-1500

Email：awt_pr@wag-inc.co.jp